

かけはし

第23号 平成8年2月29日発行
発行 千代田区教育委員会



鬼たいじゲーム (昌平小)

主
な
記
事

☆「いじめ」を考える

☆ウエストミンスターの思い出

☆小学校 中学校 連合文化祭

☆学校行事ア・ラ・カルト

節分の豆まきのかわりに鬼が背負った箱に紅白球を投げ入れました。たくさん入れたほうが勝ちです。とても寒い朝でしたが、みんな元気一杯でした。

*教育広報「かけはし」は資源保護のため再生紙を使用しています。

「いじめ」を考える

「いじめ」については、最近マスコミでも大きく取り上げられ、深刻な社会問題となつています。「いじめ」によって受ける心の傷は計り知れないほど深く、大きく、時には生命にまでかわる重大な問題として、絶対に見過ごすことはできません。教育委員会としても「いじめ」の早期発見・解決を目指し、学校や家庭、さらに地域の方々との連携を図りながら、「いじめ」の根絶に向け全力で取り組んでいます。そこで今回は、主として「いじめ」とは何か、「いじめ」の早期発見と対応の仕方など、「いじめ」を基本的にどのよう認識したらよいかについて取り上げてみます。

一 「いじめ」とは

いじめの問題を正しくとらえ、適切に対応するためにも、「いじめ」とは何かを把握しておく必要があります。文部省では、調査の際に学校に対して次のように通知をしています。

「いじめ」とは、自分より弱い立場にある者に対して一方的に、肉体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じていて、学校としてその事実を確認しているものである。

ここでの「一方的」「継続的」「深刻な」をどの程度厳しくとらえるかにより、「いじめ」としての把握が異なります。また、「苦痛」の受け止め方も人により様々です。ここに示した「苦痛」とは、それを見ている子供や教師が一方的に判断することではなく、それを受けている子供自身の受け止め方によるものです。例えば、「ニックネーム(あだ名)で呼ばれるこ

と」が大きな苦痛と感ぜられる子供にとっては、それが繰り返されれば、「いじめ」となり、それがほとんど気にならない子供にとっては「ふざけ」と受け止められるのです。このように「いじめ」の受け止め方は、極めて個人的なもので、その分慎重な配慮が必要です。

二 見えにくい「いじめ」

受け止め方の違いとともに、「いじめ」は第三者から見えにくく、よく言われまです。それは、加害者が「いじめ」を遊びやふざけに装ったり、集団的制裁のスタイルを取ったりして、自分たちの姿を外に見せないようにして「いじめ」を行うからです。

「遊び」は、子供が対等の関係で行う活動であり、特定の子を「弱い立場」において行うものではありません。遊びには必ず役割の交代があるから、例えば「かくれんぼ」でオニにされても「いじ

め」られているとは受け止めません。しかし、常に特定の子がオニにされ、いやになってやめようとすると非難したり、集団的な制裁を加えたりするという状態は、「一方的・継続的攻撃」の「いじめ」であり、その子の些細なことを事あるごとに取り上げて非難するというやり方で、「いじめ」は繰り返されるのです。

三 けんか・意地悪と「いじめ」の違い

子供の初期の発達段階では、兄弟・姉妹や仲間でのけんかや意地悪、嫌がらせなど様々な攻撃的な行動を發揮しながら育つものとされています。相手と利害が対立したときには、我慢するか、素朴な攻撃行動で相手に勝とうとします。こうした行為は発達の途上で見られる特性であり、世界中どの子供にも見られることです。むしろ、このような攻撃性を發揮できず抑圧をしよう、我慢しようとする子供には、種々の問題行動が生まれることもあることが臨床心理学の面から実



証されています。おとなしく、自己主張せず、我慢強い子が必ずしもいい発達を遂げているとは言えません。粗野な攻撃行動から、次第に口論や議論などの、社会化された攻撃の方法をマスターすることが、発達に必要なプロセスなのです。しかし、最近は兄弟・姉妹が少なく、近所に遊ぶ仲間も少なくなつて、子供同士がお互いに気心が知れず、自分の言いたいこと、したいことを健康的に表現することができなくなつてきていることが、「いじめ」を多発させる土壌になっているとも言われています。

四 いじめの早期発見と対応

いじめられている子は、人間としての尊厳を傷つけられ、非人道的なはずかしめを受けており、さらには、学校で学習する権利を侵され、時には、生存の権利さえ奪われています。

弱いものをいじめることは、人間として絶対許されない行為であり、いじめを傍観することも許されません。

いじめる子も、傍観する子も、相手を思いやるという人間として最も大切な心が育まれていないのです。いずれの子供についても、健全に成長する権利が実現されているとは言えません。

いじめの問題の対策で特に重要なものは、①早期発見 ②早期対応 ③いじめを許さない共通理解とされています。(一)「いじめ」のシグナル

大人は子供のどんなシグナルからいじめを把握できるでしょうか。

- ①表情や態度から
 - ・休み時間や放課後など一人でぼつんとしていないか。
 - ・表情がうつむきかげんになり、無口になっていないか。
 - ・教師や親との視線をそらそうしたり、何かを隠そうとしたりしてはいないか。
- ②行動から
 - ・登校を渋ったり、授業を休んだりする傾向はないか。
 - ・「なんでもない、関係ない」と平静を装っていないか。
 - ・遊びの中に入っていないか、見ているだけのことはないか。
 - ・他人の物を持たされたり、使い走りをしたりしてはいないか。
 - ・保健室に行くことが多くないか。
 - ・職員室前の廊下をうろろしたり、教師に話しかけようとしたりする行為はないか。
- ③持ち物や服装から
 - ・カバンや学用品などが隠されたり、傷つけられたりしていないか。
 - ・教科書やノート、机、黒板などに落書きやいたずら書きはみられないか。
 - ・服装の汚れ・乱れ、身体が傷ついていることはないか。
 - ・度々お小遣いを要求したり、親のお金を持ち出したりしていないか。
 - ④交友関係から
 - ・仲良しグループから遠ざかっている

ことはないか。

- ・給食など、一人で机を離れて食べていないか。
- ・あるグループといやいや行動したり、不良行為をしたりしていないか。
- ・不当な掃除当番や罰当番を一人の子にさせていないか。
- ・みんなの前でからかわれたり、笑いにさらされたりしていないか。

(二)「いじめ」の訴えに対して

いじめられている子から訴えがあった場合、それを真摯に受け止めることが大切です。「いじめられた」という事実をありのままに知ろうとすることが必要で、そのためには子供の訴えを聴くことが大切です。

- ①話をうなずきながら聴く
 - ・顔をしながら子供の訴えの一言一言にうなずき、余計な言葉をはさまずに聴いてあげることが必要です。
- ②本人の訴えた言葉を繰り返す
 - ・不愉快なことや悲しいことを訴えているときには、その言葉を繰り返して



あげることによって、子供の心に安心感を生むとともに、子供自身が自分の身に起きていることを客観的に考えるきっかけとなります。

- ③話が混乱しているときには、その内容を整理して聴かせる
 - ・話を整理して事実関係を明らかにすることで、本人の気持ちの整理ができ、具体的に考えられるようになります。
- ④分からないことを質問する
 - ・不明確な部分を簡潔に質問し、整理して聴かせることが大切です。
- ⑤本人が努力していることを支持する
 - ・「一生懸命我慢していたんだね」など、本人の努力を認める言葉をかけることが、次の努力へのエネルギーとなります。

五 「いじめ」の問題に対する取り組み

- (一)学校における主な取り組み
 - ・千代田区立の学校では、学校を挙げていじめの予防と早期発見・早期対応をしています。
 - ・休み時間・放課後に子供と一緒に遊んだり、様子を観察したりするなど、アテンナを高くして、子供のわずかな変化を見逃さないように気をつけています。
 - ・学級会などを利用し、小さな問題でも常にみんなで考えるようにしています。
 - ・温かい言葉かけなど、日々の触れ合いを通じたカウンセリングマインド(受容共感的態度)による指導をしています。
 - ・事例研究やセラピスト(心理治療相談

員)を講師とした研修会を実施し、いじめの問題と児童生徒への理解を深めています。

- ・主な取り組みだけを紹介しましたが、学校の先生は、家庭と違った集団生活の中で子供を見えています。家庭と学校との連絡を密にすることが、いじめの問題への対策として重要です。
- (二)教育委員会における主な取り組み
 - ・校長会・教頭会・各種主任会などで「いじめ問題」をテーマに研修会を実施し、対応について理解を深めています。
 - ・生活指導主任会などで情報交換をし、実態把握をしています。
 - ・「いじめ対策連絡会」などで対策のあり方を協議したり、教育研究所のセラピストを学校に派遣したり、学校支援をしています。
 - ・警察署や青少年問題協議会など、関係機関や地域との連携を密にしています。

いじめ電話相談

☎(03)604-4307

いじめ電話相談以外に、子供のごとで個人的に相談したい方のために、教育研究所に教育相談部を設置し、教育相談専門員や医学・心理学の専門家などが担当し、学校とは違った視点で相談に応じます。

教育相談部

所在地 内神田2-1-18
電話 (03)606-8140



▲ザ・グレイコートホスピタルの授業風景

ウエストミン

しました。会話や生活習慣、また食事などに戸惑いながらも中学生たちはたくましくしかも柔軟な感性をもって、イギリスをしっかりと心の中に刻みつけてきました。

そこで本号では、今回の海外派遣中学生全員の、最も心に残ったことを紹介します。

ロンドンでの生活
一橋中一年 水谷 舞
ロンドンでは、ホームステイを約一週間しました。その間、四日間学校に登校し、ロンドンでの生活を体験しました。ただ、私の日本での生活と異なる点がありました。例えば、食事、風呂など、そして学校では、授業の多さです。授業は各自が選択するらしく、毎回クラスメイトが変わります。もつと大きな違いは、水、お金、そして言葉です。言葉には一番苦労しましたが、一週間の間に、回数や理解力が増えました。

新しい自分
一橋中一年 大炊御門 憲嗣
僕はこの海外派遣の中で、向こうの生活について書きたいけれど、他にもっと大事なことがある。それは、一緒に行った海外派遣生同士の友情だ。何週間も一緒にいたわけでもない。でも、彼らといる時は話題が見つかることはなかった。そこで僕は、いつもとは違う新しい自分を見つけた。そして、学校に帰ると「変だ」と言われてしまった。でも僕は、彼らと出会い、今までより明るくちよつと変になつてしまった自分に後悔はしていない。これからも、一緒に遊び、語り合うことのできる、仲のいい友達であれたらと望んでいる。

二つの思い出
今川中一年 外岡 信隆
僕がこの海外派遣で心に残っていることは二つあります。一つはヴァチカン美術館にある「最後の審判」でした。この作品の色を塗りかえた部分と塗りかえていない部分の色の違いがとても印象的で、聖母マリアのスカートの色が特にきれいでした。



▲ホストファミリーと一緒に

あつという間に過ぎてしまったけれど、たくさん思い出を作ることができました。本当に楽しかったです。

すばらしい経験
今川中一年 平林 美里
この海外派遣で一番うれしかったのは、ホームステイ先の家で家族の一員として家庭生活に参加できたことです。いろいろな不安をかかえていた私を家族の人たちは温かく迎えてくれました。そして、



▲シェークスピアの生家前にて

ホームステイ先の友達やその家族とめぐり会い、みんなと協力し合つて、この派遣でたくさんの人たちとの友情が深まつたと思います。

スターの思い出

中学生海外交流教育としてウエストミンスター市への派遣は、大きな成果を挙げ、去る十一月八日に全員無事帰国しました。行程などについては前号の「かけはし」で紹介しましたが、生徒それぞれがホームステイを通してイギリスの一般的な家庭生活を体験



▲ウエストミンスターシティスクールの授業風景

ロンドンにて
麹町中一年 彦田 理矢子
一週間のホームステイで、パートナーのダンニエルと一緒に過ごすうちに、私は自分がロンドンの街の雰囲気、人々、生活に溶けこんだような気がした。テムズ川のほとりに立つと、川面に映る空と雲と樹々は、ターナーの描写をながめているようだった。毎日、真っ赤な一階建てバスに乗って、ウエストミンスター寺院の近くの女子校ザ・グレイコートホスピタルに通った。授業は十四教科の中から、九科目選択で、生徒と先生は活発にディスカッションしている。最も興味深かったのは、「ジーン・エア」を読んだ英語の授業だった。クラスメートとも自然に打ち解け、また行きたいと思う。

自分のことは自分で行う
麹町中一年 堀田 友弘
イギリスに行き、生活の違いを一番強く感じたことは、自分のことは自分で行うということです。僕のパートナーであるエディーは、洗濯やアイロン掛けや朝食作りなどを、全て自分で行っていました。この生活習慣は、とても良いことだと思います。日本では普通、家事は母親が行つことが多かったです。社会に出た時に、イギリスの習慣である「自分のことは自分で行う」ということは、とても役に立つと思うので、これから身につけていき



▲ウエストミンスターシティスクール校舎

たいと思います。とにかく毎日充実していて、とても良い体験ができ、うれしく思いました。

「イギリスに行つて...」
九段中一年 笹島 雅恵
イギリスに行つて一番印象に残っていること、それはホームステイした家族の一員となつたことです。行く前は不安で一杯だった私が、うそのように家族の一員として一週間を過ごし、笑顔の絶えない毎日でした。私が英語で話そうとするたびに耳を傾けてくれて、パートナーもゆつくり話してくれて言葉が通じた時は、とてもうれしく不安はなくなりました。分からないですつとそのままだにいる癖がある私でしたが、言葉が分からない国でも努力すれば何でもできることを学びました。こんなに素晴らしい機会を頂いたのですから、これからは努力をして広い世界を見ていきたいと思います。



▲タワーブリッジにて

海外派遣を終えて
九段中一年 清水 孝太郎
ロンドンに旅立つ日が近づくと、期待と不安で複雑でしたが、結団式に臨んで責任の重大さを感じました。そして英国で僕を受け入れてくれる家族と対面した時は、興奮して何をしてもよいのかわ戸惑いましたが、時間が経つにつれて気分も落ち着き、家庭生活や中学校での授業を楽しみ余裕が出てきました。また、課題をこなすためにビデオなどを使って資料を集めました。会話の不自由さも、何とか身振り手振りで気持ちを通じ合つことができました。しかし、語学の重要さは痛感しました。習慣の違いの者同士が理解し合える最大の手段だからです。また訪れてゆつくり勉強してみたいと思いました。



▲席書会 (昌平小)



▲連合作品展 (富士見小)



▲科学センター (和泉小)

学校行事 ア・ラ・カルト 〈11月～2月〉



▲クリスマス会 (千代田幼)



▲ふれあい給食 (番町小)



▲チュールナップ集会 (お茶の水小)



▲国際音楽祭 (富士見小)



▲ふれあい広場 (和泉小)



▲ポンペイの遺跡にて

英語を少ししか話せない私にさまざまな
ジェスチャーを使ったり、紙に絵や文章
を書くなどして理解し合えるようにして
くれました。
また、全員がよく日本語を使ってくれ
「いつもありがと」「おやすみ」などと
言いに来てくれました。最初に行った時
の不安もすくになくなり、家族の中に溶
け込むことができました。本当に得がた
いすばらしい体験ができたと思います。

親切なホストファミリー
練成中 二年 鈴木 雅子
私は、この海外派遣で、いろいろな学び
いろいろ体験しました。その中でも、私

の心に残っていることは、すばらしい美
術品や遺跡などではありません。
もちろん、見たもの全てすばらしいも
のばかりでしたけれど、それよりも、私
に熱心に話しかけてくれるパートナーの
態度、親切なホストファミリーの言葉な
どが今もしっかり心に残っています。ず
っと心配していた言葉の面も、そのおか
げですばいぶんでした。
私は、そのような方々に囲まれて、良
い体験ばかりをしてきました。私たち十
名しか体験できなかったのが、とても残
念に思えます。

海外派遣での思い出
練成中 一年 横井 康宏
今回、中学生海外交流教育で、イギリ
スとイタリアの二ヶ国を訪問しました。
「外国の素晴らしい」に感動し、また多
くのことを学びました。僕はこの海外派
遣で、ホームステイが大変楽しかったで
す。始める前までは、少し不安でしたが、
全くそんな心配もなくパートナーのア
ンソニー君一家と生活できました。ホーム
ステイ体験ができたおかげで、外国の友
達が身近に感じられます。
僕はこの海外派遣で、さまざまなこと
を学び、体験できたことを誇りに思いま
す。英語で会話できたこと、外国のさま
ざまな人と友達になれたこと、本当に心
から行ってよかったと思っています。

小学校校 中学校校 連合文化祭行われる

今年度から学校の休業土曜日が月一
に増えたことで、授業時数の確保という
ことが大きな課題となってきました。
そのため、小・中学校の学校行事の内
容や方法を見直し、一層の精選を図る必
要が出てきました。そこで区の連合行事
の持ち方について検討した結果、従来行
われていた小学校の連合音楽会、連合学
芸会を統一し、連合文化祭として音楽会
と学芸会を隔年に実施することになりま
した。また、中学校でも英語学芸会、連
合音楽会などの行事内容を生かしながら
連合文化祭として統一した形で実施する
ことになりました。
今年度の連合文化祭は、去る十一月十
四日に中学校、十一月五日に小学校が九
段会館ホールを会場に行われました。中
学校では従来の英語学芸会の流れを生か
した劇や、人間の生き方を風刺的に表現
した劇で生徒の迫真の演技がみられまし
た。さらに、すばらしい合唱や合奏など
がつづき、バラエティーに富んだ充実し
た文化祭となりました。
小学校は、今回は八校とも劇が上演さ
れ、どの学校もよく練習を重ねた子供た
ちが、可愛らしい演技を披露してくれま
した。また、色彩豊かで工夫された舞台
装置も、演技を一層盛り上げ観客の目を
楽しませてくれました。



▲小学校連合文化祭



▲中学校連合文化祭

きょういく

寒い寒い冬でした。風邪をひき体調をくずされた方も多かったのではないのでしょうか。私もめずらしく風邪と二ヶ月以上つき合い、鬼の攪乱(かくらん)か年のせいかと考えこんでしまいました。その間、気づいたことは、前にも増して「健康に生きる」ことの難しさと素晴らしさでした。

近所のお医者さんは、常に長い人生を元気に生きるために必要なことは、「若い内に体を鍛え、体に良い貯金を沢山しておくこと、その貯えを上手に管理して生きることです。」と言われます。このような誰にでもできる当たり前のことを、私はどうしておろそかにしてしまったのか、今更ながら残念で口惜しく思いました。

今日の社会は、子供にとっても大人にとっても、生きるために様々な努力が必要のようです。しかし、心身共に健康に生きることの大切さや、その難しさを子供たちに話して聞かせ、考えさせることは、私たちにもできると思います。家庭と学校と社会が、それぞれの立場で共に考え、一層の努力をしてみてもいいかがでしょうか。

例えば、家庭ではバランスの良い食生活、心の通う無理のない日常生活を心がける。

学校では給食、栄養指導、体力づくり、健康について考える時間をさらに増やす。社会では子供たちを取り巻く社会環境

からストレスを少しでもなくしていく方向に変えて行く。

このような努力をしていくことにより、子供たちは必ずや元気に成長していくこととでしょう。そして、心身の安定と向上を図ることが、体、心、頭が健全に機能するための一助になるのではと考えます。さらに、今日の社会問題である「いじめ」



心身共に健康であるために

曾根史子



「自殺」など、子供を取り巻く不幸な環境を少しでもよい方向に変えることができればと考えます。

さて、私たちが長寿社会の中で、豊かな人生を送るために何を考え、何をなすべきかを本気で考える時が来たように思います。それにつけても、最近、生涯学習の重要性がいろいろな形で語られてい

ます。生涯学習はシルバークリエイティブと考えがちですが、コンティニューイングエデュケーションと英訳され、人生を通して学ぶ場のことを表しています。

とかく子育てに忙しい時期には、母親業に専念するため、自分自身のための時間を持つことが難しいと思います。しかしながら、そういう時にこそ何かを求め、自分の好きなことを好きな形で学習に取り組んでみてはどうかでしょうか。きっと子供たちは、その親の姿勢を喜び、良い影響を受けることでしょう。

千代田区としても生涯学習を目的とした推進計画を種々考えています。総合文化施設の建設、国際交流の推進、いきいきプラザでの福祉、健康、文化事業など皆さんがより豊かに生きるためのニーズに合わせ、役立つように努力しています。そして地域の方々と何かを共有することができれば、地域コミュニティの活性化、連携につながり、より豊かな生き方になるのではないのでしょうか。

人生は、それぞれが素敵なドラマだと言われています。「生きていて良かったと思える人生」を送るためにも、心身共に健康であることが第一だと思います。

千代田区教育委員

そね ふみこ

今回の海外交流教育を終えて、引率された大宮九段中学校長は次のように感想を寄せてくださいました。「日英の少女たちがフライドポテトなどの夕食を頬張りながら、ちよっとした仕草に大声で笑う。食後はピアノを弾き、歌い合う。言語を越えて屈託なく振る舞う様子は、古くからの知り合いのようだ。その他、交流の場面は数多くあり、その成果は言葉では言い尽くせない。」

イギリスでのホームステイという貴重な体験を糧として、視野の広い生徒に成長していった欲しいものです。

また、平成七年度も残り僅かとなり、卒業を迎える小学六年生と中学三年生は、四月から新たな進路へ進むことになりませんが、今まで培った勉強や友人関係を実りあるものにして巣立っていくことを期待しています。

なお、前号で紹介した海外派遣中学生で、清水孝太郎君(九段中)と水谷舞さん(一橋中)の氏名に一部誤りがありましたので、お詫びします。

きょういく 随想

教育広報「かけはし」第二十三号
平成8年2月20日発行
編集発行/千代田区教育委員会
〒102 千代田区九段南1-6-11
TEL 0470-151-3311